

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		家庭的な環境と地域の中でその人らしく生活することを支えるケアを心がけている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	問題点は早めに、話し合い、解決できるようにしている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		運営推進会議を2ヶ月に1回実施、議事録を家族の手紙に同封している
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近隣の方からホームに差し入れがあったりする ホームに気軽に遊びにこられる。家族の方の同意をえて、さらにたくさんのかたのホームの来園があるように心がけたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		高校生のインターシップの受け入れや実習生の受け入れもしている。時に溝掃除などで、地域の方との交流を心がけている。幼稚園などの交流を予定している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、民生委員や市役所の方、家族の方との話し合いのなかで地域に住む高齢者の役に立つことがないか情報を把握するように心がけている。もし災害があれば、ホームを利用していただいたり、気軽に立ち寄っていただくように伝えている	○	管理者、職員が勉強会などに参加して、認知症のケアの啓発に努めている。運営推進会議で認知症の勉強会、消防署の方による防火対策などの勉強会をとりいれている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は一連の過程を運営者(管理者業務)スタッフが全員で取り組むことで、スタッフの意識あわせ、ケアの取り組み、事業所の質の確保に努めている。自己評価をパート職員全員で取り組んでいる。外部評価の結果はミーティングに報告、改善に向けている。	○	外部評価は新人のスタッフは理解できない部分もあるので、説明しながら取りくんでいく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項や経過を報告し合い、ひとつひとつ積み上げていくようにしている。		推進会議に参加された方の意見を参考にしていく。議事録をとり家族に配布している。不参加の家族の意見を後きくようにしている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当の窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。		市職員の研修場所として事業者を活用してもらい、職員や利用者の交流が出来る様にしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。グループホーム協議会などで主催する。成年後見人制度の研修に参加している。入居時に家族説明している		裁判所についてパンフレットなどを活用ホームに置いてスタッフがいつも関心を持つようにしている。勉強会に参加している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		常にミーティングなどで課題を取り上げ話し合い、関心をもつようにしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明などで事業所で出来ること、出来ないことを明確に説明している。解約する時も十分な説明を行っている。	契約時に十分に時間をとって説明している。理解されるまで、説明するよう心がけている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者の方が意見不満を言えるような雰囲気づくりとコミュニケーションをしている。	クレーム報告書を作成し、保管、問題点について、スタッフ全体の問題として解決へとあたっていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態は状況に合わせてその都度報告、金銭管は毎月、個別の報告を定期的に連絡している(月一回)	3ヶ月に一度、家族への手紙を発行して、利用者の暮らしぶりを報告している。運営推進会議議事録は毎回、ご家族に報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙やホーム訪問時、家族会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見はミーティングで話し合い反映させている。苦情があれば書面に残し皆で話し合い対応する	ご家族が来園された時、意見、不満、苦情をお聴きし家族談話記録に記載している。めやす箱を設置している。クレーム報告書がある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に運営者は、ホームに出てきて、職員の意見や提案を聞くように心がけている。ミーティングは月1回、職員の意見もその都度聞き入れるように心がけている	管理者は常日頃から、運営に関する意見、提案を朝の申し送りやミーティングなどで職員から聞き、反映させている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化などで、職員を確保しなければいけない時は、管理者と職員が話し合いながら、勤務の調整している。	管理者が24時間、緊急時は対応できるようにしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむ得ず、職員が退職の場合、利用者の方にダメージがないように心がけている。新しい職員が入る場合も利用者を紹介し、利用者からホームのことを教えてもらう工夫している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>パートの職員もチームの一員として研修、会議など参加している。職員の質の確保、向上にむけた育成が出来るように年間計画の中で研修をいちずけていく工夫をしている。働きながら研修できるように、勤務体制を考えている。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>管理者が介護労働安定センターで雇用管理責任講習を受講している</p>	<p>○</p> <p>研修を通じてさらに勉強し、啓発活動に取り組みたい</p>
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は管理者と兼務してホーム内全体を把握して、勤務体制を考え、職員が働きながら、研修会などすすんで行けるように配慮している。</p>	<p>職員全員が交代で研修が受けられる」ように配慮している</p>
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者のホームを見学に行き、情報交換をしている。</p>	<p>グループホーム協議会に加入している。地域のグループホームでも協議会を立ちあげている 月一回勉強会をしている</p>
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は管理者と兼務して、職員の業務や悩みを聞きながら、職員が向上心を持って働けるように心がけている。</p>	<p>○</p> <p>ミーティングなどで職員全員が意見を出し合えるように心がけている同じ人に偏らないように一人一人が意見をだせるように心がけている</p>
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者はホームに勤務して、ホーム全体を把握している。</p>	<p>○</p> <p>向上心を持って働き続けるように職員に取り組んでいる。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時本人の思いを確認し、よく話を聞くように心がけている。本人が何を希望されているか、良く聞き困っていることや不安など時間をとって聞いている。	面談を重ね信頼関係をつくり、本人の気持ちが出しやすいように心がけている。これまでの経緯についてゆっくり話を聞いている
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時ご家族の思い状況などを確認し、よく話を聞くように心がけている。ご家族が何を希望されているか、良く聞き困っていることや不安などにたいして出来ることはすぐ実行し対策を考える。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人が希望することをよく聞いて、必要とするサービスを提供する 家族との信頼関係がもてるように努める	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、ホームに入所できるよう、入所前何回かホームに来ていただき食事などして馴染んでいただいている。	ご家族や本人の方にホームを見学していただき、納得した上でサービスの開始をお願いしている、

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理が好きな方からは、味付けを教えていただき、手先の器用な方からは折紙や人形作りを教えていただいている。	本人の無理のないように、職員にも料理などおしえていただいている
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が職員に気を使うことがないように気配りしながら、会話を持つようにしている、	職員、家族、利用者の方とチームとして協力していけるよに関係の調整を働きかけている
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームに入居された事により関係が希薄になることのないように状態報告を密にしている。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者の方や友人に会いに行ったりと馴染みの関係が途切れないように支援している。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団の中で利用者が孤立しないように職員が個別に話を聞いたり相談にのっている、	利用者の方同士にてよりよい関係ができるようスタッフが間に入り中をもったり共同生活ならではの良いところを支援している
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても利用者や家族のかたがホームに立ち寄られたり、継続的な付き合いがあるように心がけている。	○ ご家族の相談にのっている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話をじっくり聞き事からはじめ、何を希望されているか常に知るようになっている、意思疎通の困難な方には、ご家族や関係者から情報をえるようになっている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の全体像を把握するようにつとめている、アセスメント表を記載している	○ ご家族に本人のバックグラウンドに関する情報の大切さを伝えどんな小さなことでも情報を伝えていただいている、
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに行動や動作から感じ取り本人の全体像を把握している。本人の出来ないことを注目しそのかたの全体の把握に努めている	介護日誌、健康チェック表、個別の月間介護記録がある。申し送りを毎朝、毎夕行っている ミーティングなどで把握している
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き介護作成に反映させるようになっている	アセスメントを含む職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員が3ヶ月毎の見直しを行っている その時の身体状況で変化があった場合は、本人ご家族のスタッフと話し合い新たな介護計画を作成している	ご家族や本人の希望を取り入れながら期間が終了する前に見直し、状態が変化した際にわ終了する前であっても見直しを行っている 家族が面会にこられた時に意見を聞き家族記録に記録し介護計画に参考になっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイル、健康チェック表、介護日誌がある。介護日誌ではエピソード等を記録している。申し送りノートで、スタッフが勤務開始前に目を通すことを義務付けている。状況に応じて介護計画を見直している		職員の気づきや利用者の状態は申し送りノートに記載 職員の情報共有を徹底している
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時の状況に応じて、家族と相談、他の事業所の意見を聞きながら支援する	○	共用型認知症対応型通所介護を5月より開設 他の事業者のかたとの意見交換が多くできるようになった
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように地域の人や場をかりて、取り組みたい	○	運営推進会議で民生委員や市役所の方など意見交換する機会がある、消防を地域の資源をもっと活用できるように取り組んでいる 運営推進会議に消防の方も出席され地域の方とも意見交換をいただいている
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて事業所以外のサービスをつなげるように、外部のケアマネジャーと連携を図っている 共用型の通所の開設で外部のケアマネジャーとの意見交換がさらに出来た		本人の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用している
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の権利擁護や総合的、長期的なケアマネジメントで事業所のみでは解決困難な状況において地域包括センターと連携を図りながら個別の支援をしていくようこころがけている 認知症の人を地域で支えるためのネットワークの拡大に努めていく	○	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に参加していただき、周辺情報交換、協力関係に取り組みたい
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、馴染みのかかりつけ医や希望する医療関係があれば、契約時家族と利用と話し合い決定し、適切な医療を受けられるように支援している		事業所の協力医のほか 利用以前からのかかりつけ医での医療を受けられるように、ご家族と協力し、通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもある 複数の医療関係と蜜に結んでいる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に診断していただき、適切な治療が受けられるように支援している	○	地域の中で認知症専門医を探して認知症の人の医療に熱心で適切な指示や助言をしてくれる医師を確保していきたい
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接に協力医があり24時間気軽に相談が出来る。気軽に相談しながら、一人ひとりの健康管理や医療的支援を行っている。医療連携で毎週正看護師に往診にきていただく。常に相談ができる		月2回の病院の往診と毎週1回必ず看護師の往診を実施している状況によってはその都度病院受診をしている
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐため医師と話をする機会を持ち事業所での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている		看護サマリーを記入、医療機関に提供し本人の普段状況や特徴などを伝えている。退院時も看護サマリーを提供していただいている
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで対応できること、出来ないことスタッフ内で話し合い、医師、家族とも話し合い状態の変化のあるごとにご家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている		重度化に伴う同意書を作成している。本人の思いや家族の思いをよくきき、スタッフ全員で方針を共有している
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ医師、職員が連携を取り安心して納得した最期を迎えられるように随時、意志を確認しながら取り組んでいく	○	体調が急変した場合はすぐに対応していただけるように、医療関係とも密に連携を図り対応している
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランを作成し、情報交換を行っている。これまでの生活環境、支援の内容など注意が必要な点について情報提供しきめ細かい連携をこころがけている		他の事業所に移られた場合何回か職員と管理者が機会を作って訪問に行ったりしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に職員の意識向上を図るとともに日々の関わり方を指導している	職員 研修生など個人情報にたいする秘密保持同意書を作成している 個人情報に対する秘密保持の原則を守り書類の保管にも注意している
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で利用者に声かけ、利用者の希望、関心、嗜好などを見極めている	利用者の方の好きな食べ物をメニューの中に取り入れている 体調の悪い時などメニューの変更希望をとり入れている
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが時間は区切った過ごし方はしていない 一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重している	買い物に行く、喫茶店でお茶を飲む外食など、出来るだけその日したい事を把握し利用者が主人公になってくらす事を支援している
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは本人の意思で決めていただく。職員は見守りをする 月1回、髪はカットや毛染めをしていただくように支援している。化粧も勧めている	利用者の方の気持ちを引き立てさせるように職員もおしゃれすることを勧めている。外出時はおしゃれしていただくように支援している
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と一緒に食事の準備や後片付けをしている その方の残存機能を活かしながら無理のないように支援している	月に1回から2回の外食を実施している 本人の好みにあわせたものをたべていただいている ホームでお弁当などづくり、目先を代えて工夫している。手づくりのおやつも利用者として作ったりしている
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	旬の食材や新鮮なものを採り入れメニューを職員が利用者の声を取り入れながら調理している お好み焼きやたこ焼きなど目の前で作り、楽しんでいただいている	誕生日、お正月、お盆など季節の行事にあわせた料理をたべていただいている。本人の好みの飲み物など体調に合わせて管理しながら、飲んでいただいている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を可能にするために、本人の生活のリズムにそった支援をしている オムツを使用していた方にも排泄のパターンを把握してトイレ誘導している 少しでも気持ちよくご自分でトイレで排泄できるように働きかけている		トイレ誘導が必要な方は排泄チェック表を使用し、尿意のない方には、時間を見計らって誘導している 夜間は全員排泄チェック表がある
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴体制をととのえている 出来るだけ希望する時間に入浴できるよう努めている チームプレイによって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている	○	入浴できない方はフットバスなどの足浴を行っている
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々の生活を促し生活のリズムを整えるように努めている 体調を見ながらゆっくり休息が取れるように支援している		夜間日誌があり、夜勤、一人ひとりの安眠状態をみている
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮していただいている 食事作りや工作、梅干し作りをしていただいている。本人が発揮できるような場面をつくっている		体調に合わせて遠出をしている 水族館やレストランに出かけている 誕生会をしている
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている方もある 出来る方は買い物などご自分で支払っていただく。		家族と相談しながら、本人の金銭管理の支援に取り組んでいる
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望で馴染みの店屋、薬局にでかけられる		歩行困難の方は車や車いすなどで利用し、戸外へ出ることを積極的にこなしている
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出は個人の行きたいところなど希望を聞いて外出をしている。遠方は定期的に計画を立てて外出している、遠方に行けない方は近場で外出できるように支援している		ご家族とでかける機会をつくり協力を得ながら外出していただいている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、電話を使用することを個別に支援している 遠方の方には月一回ぐらいで声を聞いていた		電話をかけること出来ない場合はスタッフが支援しているはがきをかいていただいている
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも家族の方が自然な形で訪問できるような雰囲気作りをしている		ご家族がホームで泊まっていたり、一緒に食事をしていたり取り組んでいる
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中や外部での研修会で共有認識している		ミーテングや申し送りでその日のケアを振り返っている
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけてない 職員が出て行く気配を見逃さない見守りや連携プレイで対応している。職員の見守りの方法を徹底している		利用者一人ひとりの外出癖や傾向をつかんで対応している
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所からリビングが全体に見通せるので、職員がさりげなく利用者を見守りしている さりげなく常に人数確認、所在確認をしている		職員は利用者と同じ空間で記録の業務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握している
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何か職員で把握し管理している		利用者の状況に照らしながら厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使うとき必要なものと分けて管理している。今まで大丈夫なものでも危険かどうか判断する
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のひやりはつとを記録し、職員の共有認識を図っている 家族に説明、報告をしている		事故報告書、ひやりはつと、報告書があり、保存している その都度職員と話し合いをしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を定期的に参加している	○	夜間一人なので、緊急時、連絡法。対応方法について、職員は日々心がけ、申し送りなどで確認している
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を配置している。消防の協力を経て避難訓練」をしている 防火計画をたてている	○	運営推進会議で地域住民の方に協力得られるように働きかけている 近所の方にも協力を働きかけている
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	契約時や利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており家族などに対して対応策等を説明している		起こりうるリスクについては、個別に定期的に見直し家族に説明している
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定をして異常の場合は提携による病院に連絡し指示を仰ぐ		健康チェックを毎朝記録している 受診のときに医療につなげている 月間記録を記入している 毎日申し送りで職員が個人の体調を把握している
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬処方箋をいれ、いつでも職員が見られるようにしている 職員一人ひとりが毎食後2人で配薬と服薬を確認している 薬の変更は申し送りでスタッフ全員で情報を共有している		処方箋をコピーケースに整理し看護師がきちんと整理、管理し他の職員に指導している
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲水量のチェック、排便を促すような飲み物をのんでいただく		健康チェックを毎朝記録している 排泄チェック表がある
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行っている 拒否される方には言葉、誘導の仕方を工夫している		介護日誌に記録している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食、水分量、食事量を記録している 毎日献立表を記入して、栄養バランスを確認している</p>	<p>個人個人の嗜好をききながら、飲み物を飲んでいただいている 健その日の康状態に合わせた食事をしていただいている</p>
80	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染予防に努めている 食前に必ず消毒している 感染マニュアルがある。</p>	<p>紙ペーパータオルを使用。速乾性の手殺菌消毒剤を使用している 外出後の手洗、うがいを実行している 感染マニュアルがある</p>
81	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>まな板やフキンは毎晩漂白し清潔に心がけている 新鮮で安全な食材を食べていただくためにこまめに買い物をしている</p>	<p>衛生管理マニュアルがある 職員が実行している</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
82	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>訪ねる人がホームに入りやすいように配慮している。玄関周りを違和感のないようにしている。 玄関は開放されており、いつも自由に訪問できる</p>	<p>花壇がある 玄関前にベンチやプランターを置いている パルコにーがある</p>
83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアの飾りつけや家具の配置は利用者と一緒に考えて自分の住んでいる家だと思える意識を高めてもらえるように工夫している トイレ、洗面台は常に清潔に心がけている</p>	<p>梅干漬け、床漬けなどで季節感、生活観をとりいれている。居間には仏壇を置き毎日、お茶などをあげられている</p>
84	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングで利用者が思い思いに過ごされている ソファの配置や食卓代の席順や配置を工夫している</p>	<p>月に一度ソファの配置を変えるなど利用者のかたの意見を聞き気の合った方と座られるように工夫している</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所のときに使いたくしたものを使用させていただくように家族に伝えている タンスや椅子以外でも写真や馴染みの者など安心して過ごしていただけるように配慮している	○	入所前に家庭に行きできるだけ本人部屋と同じような状態になるように取り組みたい 本人の持ち物が少ない、家族の協力が少ない場合も職員でその人らしく居心地よい居室作りを取り組みたいその方の心身状態にもよるが、布団で休まれていたかたは畳の上で布団でやすんでいただいている
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、リビングの温度調整をこまめに行っている 空気の入換えを2時間ごとに行っている トイレは換気扇と芳香剤で悪臭が出ない工夫をしている		居間、リビングの温度調節をこまめに行い特に季節の変わり目には十分に注意している 換気は定期的こまめに行っている
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下に手すりを設置している 安全確認と自立への配慮している 廊下を広くしているので歩行器で自由に行き来できる		手すりの場所、位置を工夫したり転倒防止のため家具の調整を行なっている
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯干し食器洗いなどそのかたの出来ることをスタッフが一緒に行い混乱を防ぐ 1ユニットなので介護度に関係なく会話を楽しまれている 混乱がないようにスタッフが間に入るようにしている		トイレ等わかりやすいように、字体にて、場所を表している。居室のドアに各自、表札を作成している
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花壇がある。利用者が外に出て腰掛、花を見て和まれたり日向ぼっこができるようにベンチがある	○	庭やベランダでお茶を飲んだり、天気いい日にはくつろがれている ウッドデッキがある 畑が作れないかたでも出来るプランターなどでの家庭菜園を作る予定

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

利用者の方一人ひとりが家庭と同様に心やすらぐ場であり、ありのままの自分で過ごせるホームを目指しています